

「辰年も成長を」

令和6年「辰年」が幕を開け、早いもので1か月が経ちました。

辰年には、努力した成果が実を結ぶことが多いと言われていています。補習校に通う子どもたちにとっても、これまでの努力の芽が成長し姿を整えていく1年になることを、心から願っています。

先日、スラックのなかで、『娘が、「補習校のミニ図書館で借りたよ！」とうれしそうに本を見せてくれました。係の皆さんに感謝します。』のお声がありました。また、『来週、130冊蔵書を増やす予定です。そのなかには、子どもたちの要望から、こわい本も入れていて、ポップを準備しています。』のお声も、じかにうかがいました。本を手にとってうれしそうにしている姿、借りた本を大事そうに抱えてかばんの中に入れてしまう姿が目に見えたと同時に、子どもたちの「(お家の人と)一緒に読みたい」「早く読みたい」という心の声が届いてきました。

子どもたちが本に親しむことができる環境づくりや工夫に努めていただき、また、常日ごろ、あらゆる方向から補習校を支えてくださいますこと、この場をお借りしてお礼申し上げます。

本当に、ありがとうございます。

今月の第2週の授業日、中高部の朝会で、生徒たちへ「さらに成長を」という願いから、「今やるべきことを、未来から『逆算』して考えよう」という話をしました。

『いつやるか？今でしょ！』の著者、林修さんは、その本の中で、充実した人生のためには、「未来の一点から今の自分を見つめ、そこから逆算して今の自分を考えることも大切なこと」と述べられ、『世界最高の「考える力」』の著者、廣津留すみれさんも、「全体のスケジュールから逆算して、3か月後、1か月後、再来週、来週……と未来から現在へとやるべきことを落とし込み、『今日何をすべきか』をその日の『TO DO リスト』に書き出す」と述べられています。

お二人共に、これまでのご自身のご経験から、『逆算』の考え方を薦めてくださっています。

その考えのもと、「まずは年度末の3月、年度初めの4月の自分の姿を想像してみよう」と話を続けました。それは、ぼんやりというのではなく、「こうありたい」という自分の姿を明らかにすること、次に、その姿に到達するために今すぐしなければならない課題を書き出すこと、その課題は出来そうもない大きな目標ではなく、「これならできる」という少し低い目標で小刻みにするといいですよ、という思いを込めました。この1年を振り返ってほしいという願いもあって。

今生徒たちは、自分に合った課題を自ら設定し、早速取り組んでくれていると信じていますが、もしかすると、未だに定めていないかもしれません。それは、自分を客観的に自己評価するまでに至っていないからです。

そこで、お家の人や先生方にお願いがあります。一緒に考えていただいて、アドバイスをいただけないでしょうか。これまで子どもたちをよく観て理解していただいた方からのアドバイスが何よりすぐれています。何とぞよろしく願いいたします。